

GUNZE

2024年3月期（128期）
第2四半期決算説明資料

2023年11月2日

グンゼ株式会社

東証プライム（コード番号：3002）

1. 第2四半期累計決算概要

I-1. 2024年3月期第2四半期累計業績

連結業績

(単位：百万円)

	2024年3月期第2四半期 (下段：利益率)	2023年3月期第2四半期 (下段：利益率)	対前期	
			増減額	増減率(%)
売上高	65,153	67,350	△2,196	△3.3
営業利益	3,230 5.0%	2,806 4.2%	423	15.1
経常利益	3,280 5.0%	3,087 4.6%	193	6.3
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,657 4.1%	2,206 3.3%	451	20.4

特別利益：有価証券売却益 700

	2024年3月期第2四半期	2023年3月期	増減額
総資産	164,745	165,927	△1,182
自己資本	118,386	115,757	2,629
自己資本比率	71.9%	69.8%	2.1%
有利子負債	13,645	15,426	△1,781
BPS：1株当たり純資産(円)	6,936.93	6,789.78	147.15

I-2. 第2四半期累計連結決算サマリー

(2023年4月1日～2023年9月30日)

中期経営計画「VISION 2030 stage1」の2年目にあたり、
2Q累計ではアパレルが収益性改善、全体では減収増益

事業セグメント業績の主なポイント

機能ソリューション	●物価上昇による素材関係の需要減速や、原燃料高の影響を受け、減収減益 ◆プラスチックフィルムは、米国の包装用フィルムが堅調に推移も、国内・アジアでは需要停滞の影響を受ける ◆エンジニアリングプラスチックは、OA機器向けが停滞も、半導体及び一般産業用向けが堅調に推移 ◆電子部品は、中国向けタッチパネルが市況低迷の影響を受ける
メディカル	●生体吸収性の新製品販売および中国における拡販が順調に進むも、医療用レーザーの販売が低迷し、減収減益 ◆新製品の癒着防止材や、中国向け製品は好調に推移も、コロナ後の美容医療機関の開院減少や設備投資抑制などにより、医療用レーザーの受注が減少
アパレル	●販売回復が進む中で、商品の高付加価値化を含めた価格改定が進み収益性が改善、増益 - アパレル事業全体では、量販店ルートが苦戦も、強化を進めるEC、直営店ルートが伸長したほか記録的な残暑による秋冬商品展開遅れの影響を受ける - 引き続きDtoCシフトによる成長戦略や、価格改定による利益改善に取り組む ◆インナーウェアは、顧客ニーズに対応した付加価値商品が好調に推移 ◆レッグウェアは、収益性の改善に向けた構造改革を継続的に進めている
ライフクリエイト	●行動制限の解除により順調に推移し、増益 ◆不動産関連分野は、前期の遊休地再開発プロジェクトによる売上計上により減収 ◆行動制限の解除により、ショッピングセンター事業とスポーツクラブ分野は、ともに回復傾向

I-3. セグメント別業績

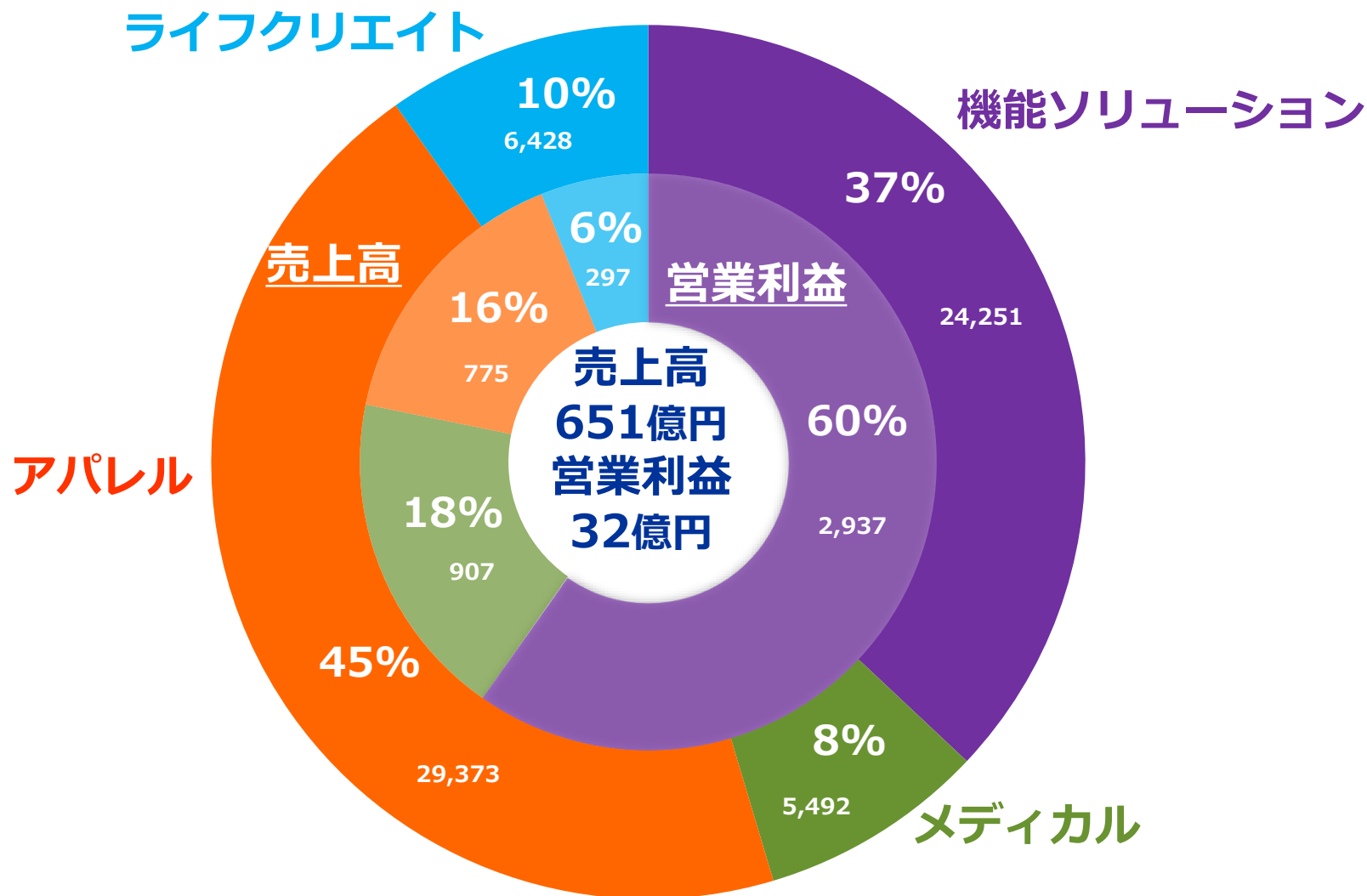
連結業績

(単位：百万円)

	売上高			営業利益（下段：利益率）		
	2024年 3月期 第2四半期	2023年 3月期 第2四半期	対前期 増減	2024年 3月期 第2四半期	2023年 3月期 第2四半期	対前期 増減
機能 ソリューション	24,251	24,836	△2.4% △584	2,937 12.1%	3,114 12.5%	△5.7% △176
メディカル	5,492	5,631	△2.5% △138	907 16.5%	1,078 19.1%	△15.8% △170
アパレル	29,373	30,082	△2.4% △709	775 2.6%	190 0.6%	305.9% 584
ライフ クリエイト	6,428	7,172	△10.4% △743	297 4.6%	198 2.8%	49.4% 98
合計	65,153	67,350	△3.3% △2,196	3,230 5.0%	2,806 4.2%	15.1% 423

I - 4 . 第 2 四半期累計 セグメント別構成比

(単位 : 百万円)



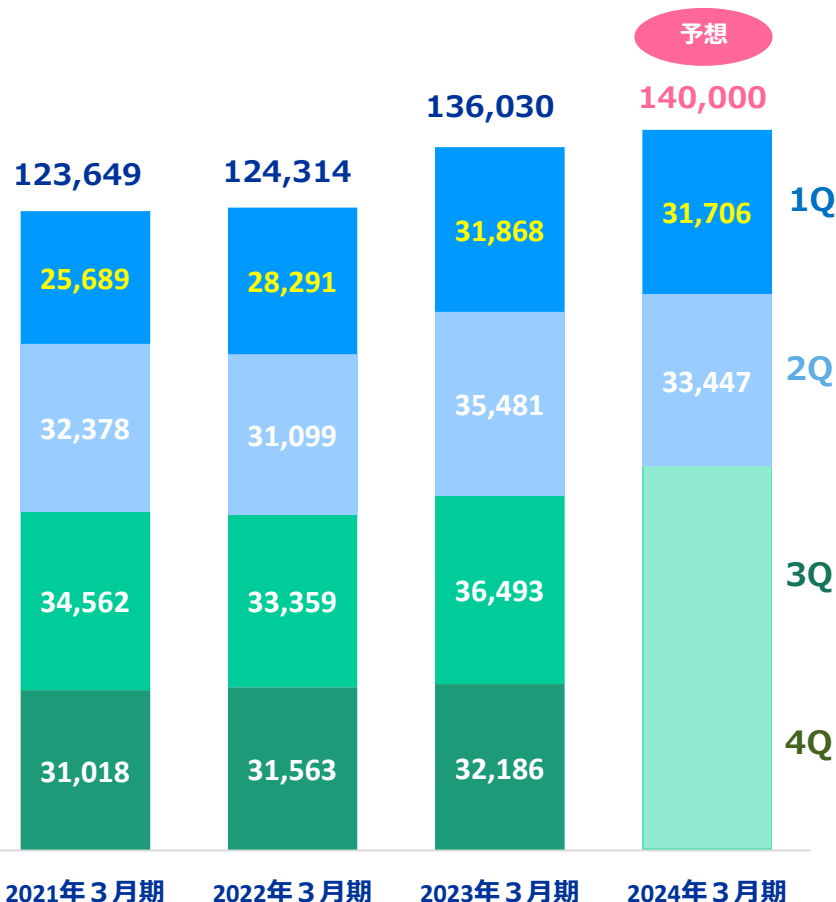
総額は、セグメント利益に含まない全社費用を含む

I -5. 2024年3月期第2四半期累計 売上高

売上高 **65,153**百万円 前年同期比△3.3%

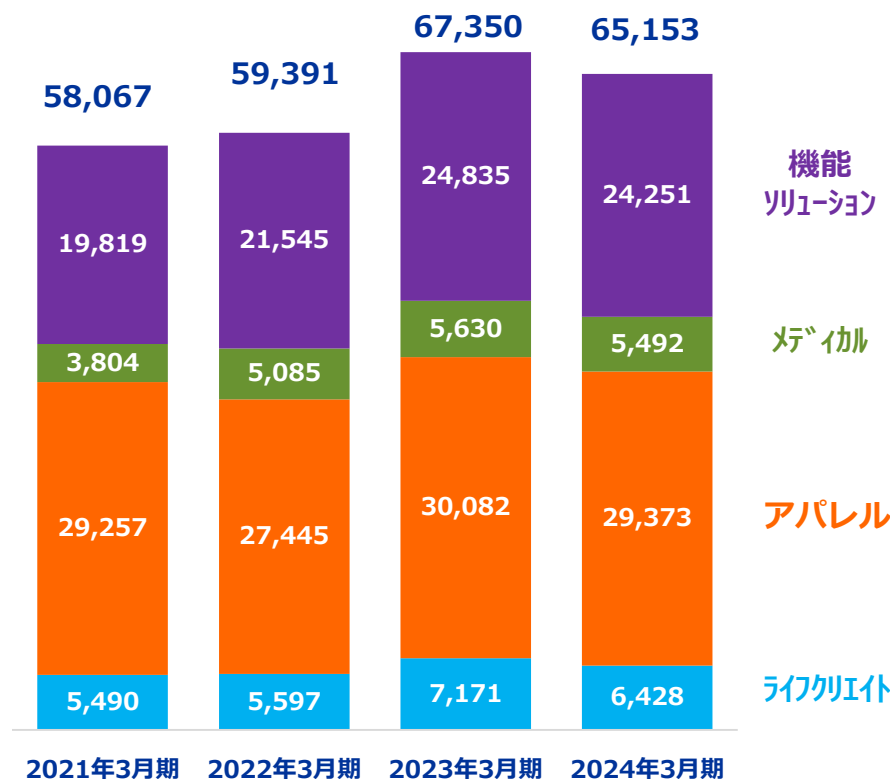
(単位：百万円)

<年度推移四半期別>



前期の電子部品フィルム事業譲渡、
不動産開発プロジェクト要因により減収

<事業セグメント推移> 2Q累計



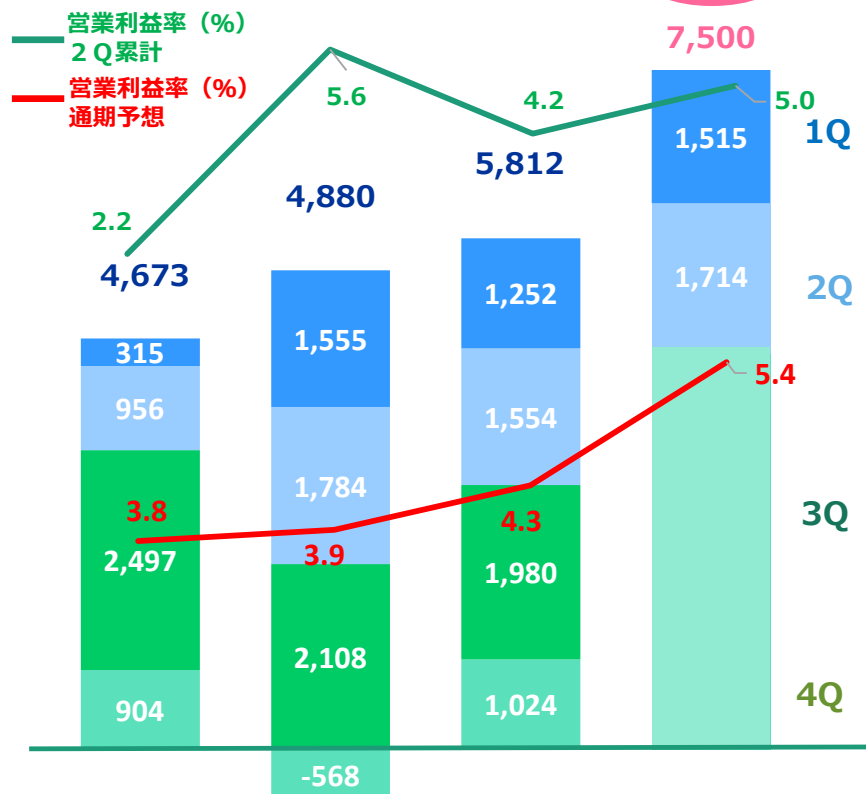
アパレルは残暑による
秋冬商品展開遅れにより減収

I -6. 2024年3月期第2四半期累計 営業利益

営業利益 **3,230**百万円 前年同期比+15.1%

(単位：百万円)

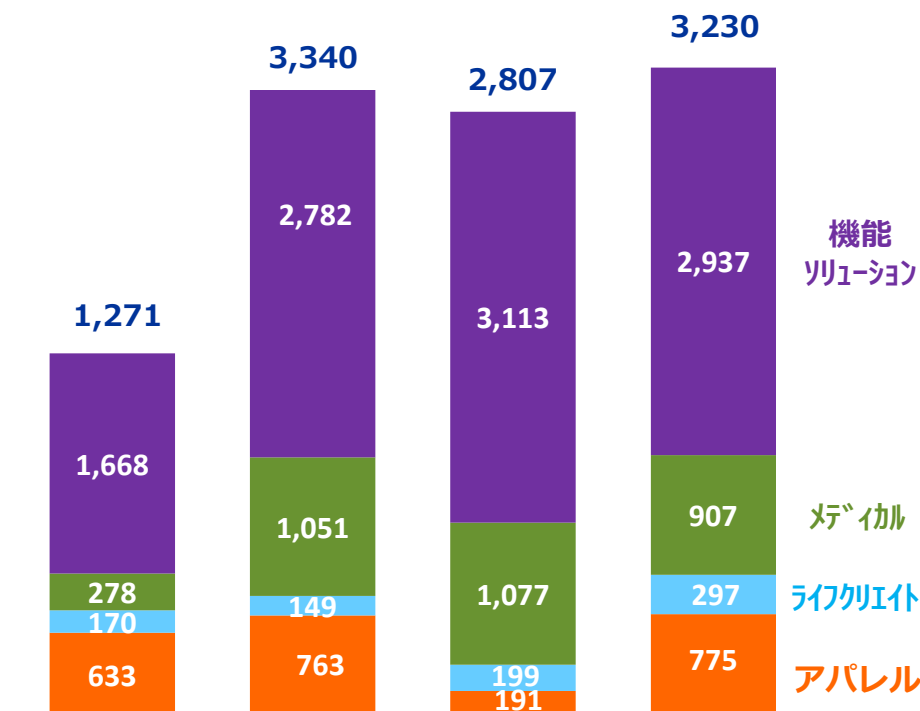
<年度推移>



2021年度3月期 2022年度3月期 2023年度3月期 2024年度3月期

アパレルの収益が改善し、
全体では4.3億円の増益

<事業セグメント推移> 2 Q累計



2021年度3月期 2022年度3月期 2023年度3月期 2024年度3月期

アパレルは収益改善により増益、
機能ソリューションは需要低迷、メディカルは
医療用レーザー販売減少により減益

総額は、セグメント利益に含まない全社費用を含む

I-7. 四半期別業績推移

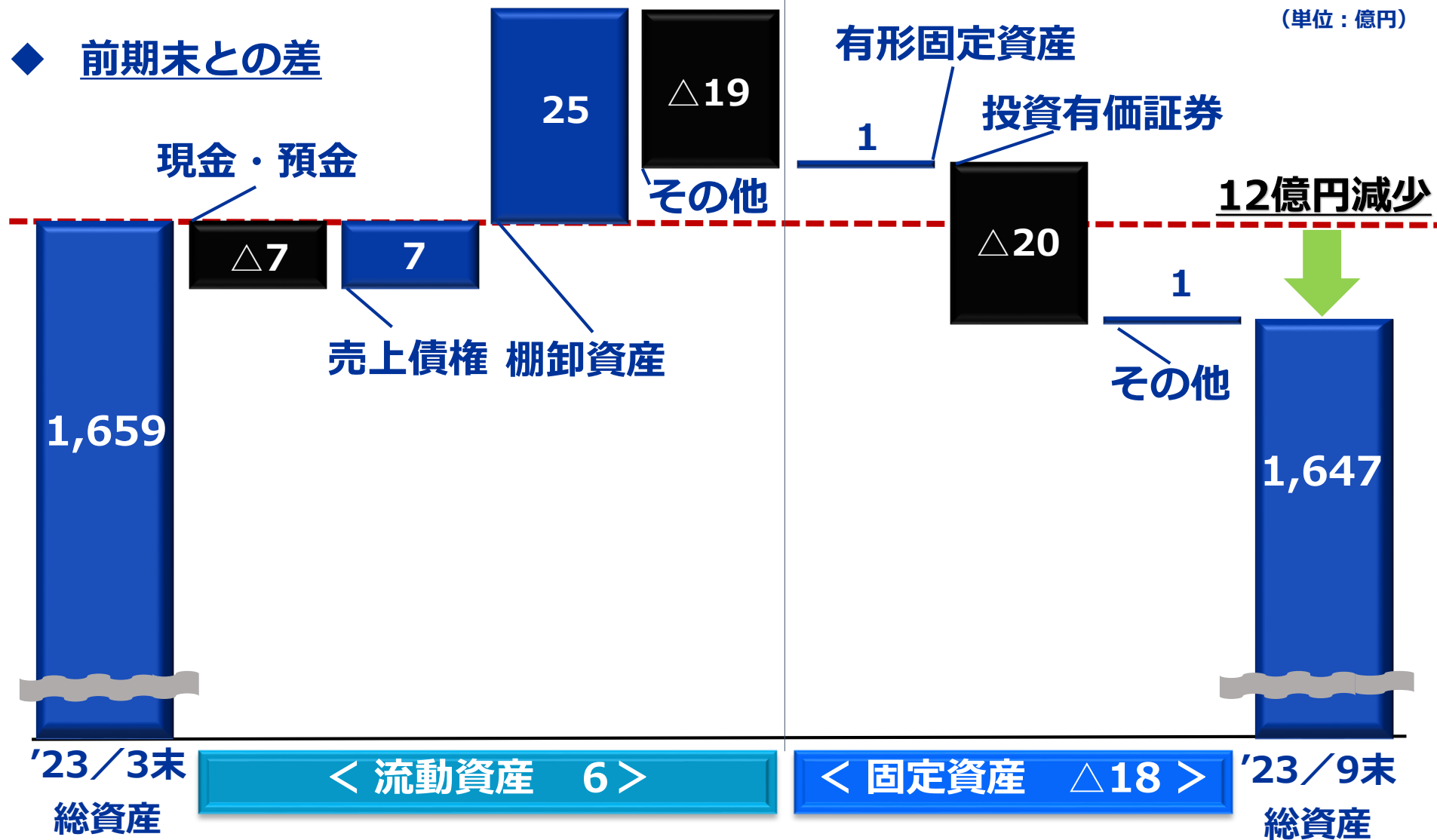
(単位：百万円)

	1Q				2Q			
	2023年度	2022年度	(対前期)		2023年度	2022年度	(対前期)	
	(24/3月期)	(23/3月期)	増減額	増減率(%)	(24/3月期)	(23/3月期)	増減額	増減率(%)
売上高	31,706	31,868	△162	△0.5	33,447	35,481	△2,034	△5.7
機能ソリューション	11,326	11,425	△98	△0.9	12,925	13,410	△485	△3.6
メディカル	2,420	2,775	△355	△12.8	3,072	2,855	217	7.6
アパレル	14,583	14,062	520	3.7	14,789	16,019	△1,230	△7.7
ライフクリエイト	3,557	3,755	△197	△5.3	2,871	3,417	△545	△16.0
営業利益	1,515	1,252	262	21.0	1,714	1,554	160	10.3
機能ソリューション	1,423	1,390	32	2.4	1,514	1,723	△209	△12.1
メディカル	463	604	△141	△23.3	444	473	△29	△6.1
アパレル	343	-26	370	—	431	217	213	97.7
ライフクリエイト	172	126	46	36.5	124	72	51	72.2
経常利益	1,640	1,570	69	4.5	1,639	1,516	123	8.1
親会社株主に帰属する 四半期純利益	1,586	1,171	415	35.4	1,071	1,035	36	3.5

I -8. 資産の増減内容

(単位：億円)

◆ 前期末との差



I-9. キャッシュフロー

キャッシュフロー

(単位：百万円)

	2024年 3月期 9月末実績	2023年 3月期 9月末実績	増減
営業活動	3,552	△2,048	5,600
投資活動	△63	△2,676	2,612
FCF	3,489	△4,724	8,212
財務活動	△4,822	△360	△4,462
現金及び 現金同等物 の期末残高	10,886	9,828	1,058

■ 主な営業CF

税金等調整前四半期純利益	3,865
減価償却費	3,018
法人税等の還付	1,225
たな卸資産の増加	△1,928
仕入債務の減少	△1,486

■ 主な投資CF

投資有価証券の売却	4,549
固定資産の取得	△3,626
投資有価証券の取得	△980

■ 主な財務CF

配当金の支払い	△2,495
短期借入金及びCPの減少	△1,877

I-10. 設備投資と減価償却費

◆ 前年比（第2四半期累計）

（単位：百万円）

	設備投資				減価償却			
	2024年 3月期		2023年 3月期	対前期 増減	2024年 3月期		2023年 3月期	対前期 増減
	年間計画	2Q累計	通期実績		当期計画	2Q累計	通期実績	
機能リユース	5,400	753	4,816	584	2,600	1,203	2,423	177
メディカル	1,000	107	553	447	500	201	371	129
アパレル	2,100	433	1,493	607	1,400	646	1,250	150
ライフワーク	1,700	314	2,053	△353	1,500	673	1,370	130
その他	800	158	680	120	500	333	478	22
合計	11,000	1,765	9,597	1,403	6,500	3,056	5,894	606



■ 当期の 主要投資計画

プラスチックフィルム資源循環型工場・生産設備	3,000
メディカル工場増床・生産設備自動化	300
アパレルSCMシステム刷新	600
商業施設リニューアル改装	600

Ⅱ. 事業セグメント別の概況

Ⅱ-1. 第2四半期累計事業概況

◆ 機能ソリューション事業 1

事業の
方向性

収益拡大

■ プラスチック

サーキュラーファクトリー(資源循環型工場)が今年4月に完成、設備の自動化や再生可能エネルギーの活用による生産革新を進める。環境対応製品の市場投入に取り組むとともに、米国・中国・アセアン等における海外拡販を強化

◆ 製品群

製品内容

概況

平板収縮

- ・PETとPSを積層させたハイブリッドフィルムは収縮性と美麗性両方の特長を兼ね備える
- ・オレフィンラベルは比重分離しやすくリサイクルが容易となるフィルム

- ・飲料分野は、猛暑により堅調
- ・食品・トイレタリー分野は、製品値上げによる消費者買い控えで数量減
- ・フィルム値上げにより増収確保

ナイロン

- ・ガスバリア性や耐ピンホール（穴が開きにくい）特性

- ・国内は、製品値上げによる買い控えや、包材面積縮小などエコ化により使用量減少
- ・輸出は、米国、中国の景気悪化による部材の低価格化シフトにより苦戦

工業用品

- ・半導体製造用、EV電池用等の工業材料や壁紙に使用

- ・半導体市場での在庫調整継続の影響を受ける

OPP

- ・防曇フィルムで差異化訴求

- ・包装材料全体の市況悪化影響を受ける

グローバル

- ・米国、中国、ベトナムの3拠点で平板収縮フィルムを生産

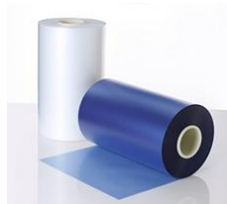
- ・米国：機能性飲料の好調に加え、ハイブリッド等機能性フィルムの拡販が進行中
- ・ベトナム：インフレで市場はコスト重視が鮮明になり、高機能品は低迷
- ・中国：市況低迷でコスト重視の姿勢が更に強まる



■ シュリンク（平板収縮）



■ ナイロン



■ 工業用品



■ OPP



- 平板収縮
- ナイロン
- 工業用品
- OPP
- グローバル

Ⅱ-2. 第2四半期累計事業概況

◆ 機能ソリューション事業 2

事業の
方向性

■ エンジニアリングプラスチック

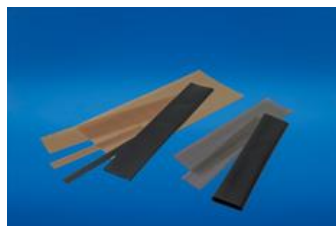
主力のOA市場向け製品のシェア拡大に加え、
新用途開発により健康・医療関連ならびに
産業機器向け製品のさらなる拡販を目指す

収益拡大

◆ 製品群	製品内容	概況
OA向け 機能商品	・定着ベルト/ロール用フッ素薄膜チューブ 中間転写ベルトは、グローバルトップシェア	・欧米や中国経済の停滞により、小型プリンター等 の買い替えサイクルの長期化影響を受ける
非OA向け	・産業分野の製造工程で使われる機能部品の 製造・販売	・フッ素樹脂原料逼迫状況の中、受注状況は各産業 共に堅調に推移



■ シームレスベルト



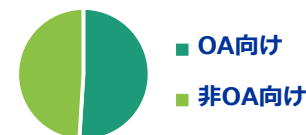
■ フッ素薄肉チューブ



■ 半導体製造用
フィルター材料



■ フッ素樹脂チューブ
(引裂き性付与)



■ 電子部品

差異化技術力の向上と筋肉質経営により、損益改善に取り組む

事業の
方向性

収益改善

◆ 製品群	商品内容	概況
タッチパネル	・ 静電容量タッチパネルの組立・販売	・ 中国向けの市況回復遅れが継続

Ⅱ-3. 第2四半期累計事業概況

◆ メディカル事業

事業の
方向性

■ メディカル

米国・中国の販売強化・継続的な新製品開発により、
事業拡大を加速 2Qに入り回復基調

成長拡大

◆ 製品群

製品内容

概況

組織補強材

- ・手術中における縫合部の補強や空気漏れ防止に適応
- ・生体組織再生の足場材料として有効

- ・中国：コロナ後に症例が回復、円安効果もあり増収
- ・米国：中間材ビジネス縮小により減収

骨接合材

- ・生体吸収性の骨接合材

- ・日本：自社新製品が好調、収益性が向上
- ・中国：整形領域での拡販が進み、増収

人工皮膚

- ・コラーゲン使用の吸収性人工皮膚

- ・日本：新たな販売体制で拡販を強化
- ・米国：外傷領域を中心に施設開拓を継続

癒着防止材

- ・凹凸形状を付与したフィルム状のゼラチンからなる吸収性癒着防止材 消化器外科中心に新規獲得進む

- ・上市以来、優れた操作性で好評を得る
- ・都市部の重要施設での新規獲得が進む。今後は地方での売上拡大に取り組む

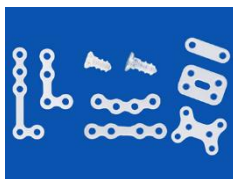
医療用レーザー等 仕入品

- ・美容・形成・創傷領域などの医療機器

- ・医療用レーザー：2Q以降既存施設への買い換え提案や個人クリニック等への深耕を進める



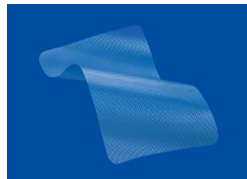
■ 組織補強材



■ 骨接合材



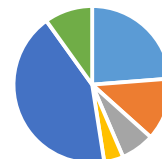
■ 人工皮膚



■ 癒着防止材



■ 医療用レーザー



- 組織補強材
- 骨接合材
- 人工皮膚
- 癒着防止材
- 医療用レーザー等導入品
- その他

Ⅱ-4. 第2四半期累計事業概況

◆ アパレル事業 1

消費行動変化に伴い伸長加速しているECチャネルや直営店舗のDtoCルートでの更なる拡販と他社との
コラボレーションを推進

■ インナーウェア分野

消費者の天然素材回帰、カジュアル化、健康志向、環境意識の高まりに即した
ヘルス&ウェルネス商品やエシカル商品を拡充するとともに、フェムテック
商品や差別化ファンデーション等レディスインナーの拡販を強化

事業の
方向性

収益拡大

- 「in・T」など、差別化技術を活用した高付加価値商品が評価され、収益性改善に貢献
- EC、直営店を中心に好調に推移

メンズ

- ・ BODYWILD：既存店は減少も、成型ボクサーを中心にECルートは好調
- ・ YG：Tシャツ専用インナー「in・T」が伸長。綿素材のベーシックインナーも付加価値訴求で増販

レ
デ
ィ
ス

- ・ KIREILABO：オーガニックコットンを使用した「Fitte」や、カップ付き完全無縫製インナー「ゆったリラ」が牽引
- ・ Tuché：期中に新規展開したブラジャーが主にEC・直営店ルートで好調

- ・ 快適工房：前期、価格改定による新規展開の反動で売上減も、収益性は改善



BODYWILD



YG



KIREILABO



Tuché

Ⅱ-5. 第2四半期累計事業概況

◆ アパレル事業 2

■ レッグウェア分野

消費者ニーズの変化に基づく市場対応力を強化し、レギンスやボトムカテゴリーの新商品を積極的に展開するとともに、生産拠点の再編等による構造改革を推進

事業の
方向性

収益改善

● 増販に加えて、収益性の改善に取り組む

- ・ ストッキング：価格改定および主力商品リニューアルにより増収。販売数量は維持
- ・ ボトム：DtoCルートでライフスタイルカテゴリー商品を拡販
- ・ 生産構造改革に取り組み、収益性が改善



SABRINA
レギンス



BODYWILD
テーパードパンツ

Ⅱ-6. 第2四半期累計事業概況

◆ ライフクリエイイト事業

事業の
方向性

収益改善

■ 不動産関連分野

商業施設の収益力向上や投資効率を重視した
物件別管理を強化

● SC事業の現況

- ・つかしん(兵庫県尼崎市)：行動制限解除以降、来客数は回復傾向も
エネルギーコスト高騰の影響を受ける

● 不動産賃貸事業の現況

- ・前期の長井市駅前開発プロジェクト(山形県) 売上計上により減収



つかしん

■ スポーツクラブ分野

スクール事業拡大および地域・店舗特性に合わせた
会員拡大を図る

- ・スクール事業強化、及び価格改定実施により売上回復も、
フィットネス事業は、会員数がコロナ前の水準に戻っていない
- ・店舗特性を踏まえ、収益改善に取り組む



スクール事業

■ 緑化分野

CO2削減に向け環境事業に積極的に取り組む

- ・樹木販売は、学校等大型案件の納品で順調



緑化事業

Ⅲ. 今後の見通し

Ⅲ-1. 2024年3月期連結業績予想

業績予想

※業績予想修正：無

(単位：百万円)

項 目	2024年 3月期		2023年 3月期		対前年	
	業績予想	利益率	実績	利益率	増減	増減率
売上高	140,000		136,030		3,970	2.9%
営業利益	7,500	5.4%	5,812	4.3%	1,688	29.0%
経常利益	7,500	5.4%	6,021	4.4%	1,479	24.6%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	4,800	3.4%	4,501	3.3%	299	6.6%

Ⅲ-2. セグメント別業績予想

セグメント別対前期比較

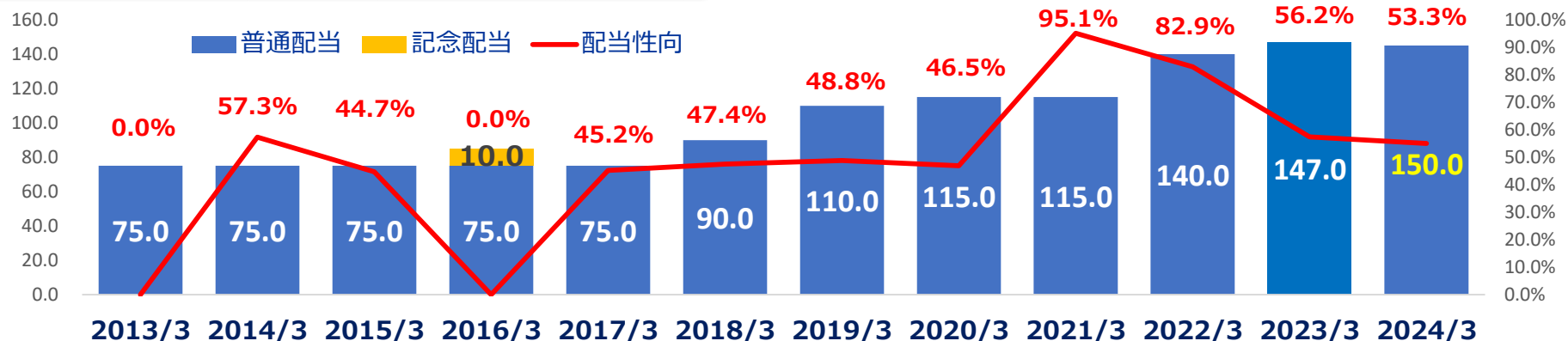
※業績予想修正：無 (単位：百万円)

	売 上 高			営業利益（下段：利益率）		
	2024年 3月期 (2023年度)	2023年 3月期 (2022年度)	増減	2024年 3月期 (2023年度)	2023年 3月期 (2022年度)	増減
機能 ソリューション	51,800	49,555	4.5% 2,245	7,100 13.7%	6,835 13.8%	3.9% 265
メディカル	12,000	10,957	9.5% 1,043	2,300 19.2%	2,082 19.0%	10.5% 218
アパレル	63,300	60,986	3.8% 2,314	1,400 2.2%	-222 -0.4%	- 1,622
ライフ クリエイト	13,800	15,327	△10.0% △1,527	800 5.8%	705 4.6%	13.5% 95
合計	140,000	136,030	2.9% 3,970	7,500 5.4%	5,812 4.3%	29.0% 1,688

Ⅲ-3. 株主還元

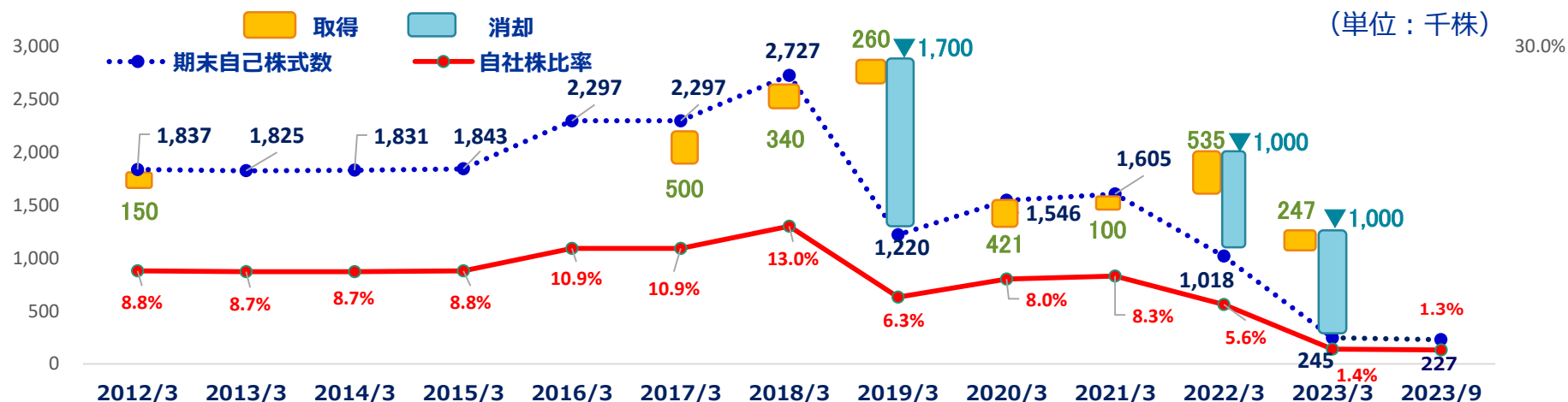
1 株配当金と配当性向の推移

(単位：円)



自社株の状況

* 2017年10月1日からの株式併合(10株を1株) に合せて、2017年3月末以前の株数を換算しております



中期経営計画「VISION 2030 Stage 1」では、
総還元性向100%(ROEが株主資本コストを上回るまで)
株主資本配当率 DOE 2.2%以上を目途に利益還元を行う方針

Ⅲ-3. 株主還元＜補足＞

適時開示（11/2）

■ 自己株式取得に係る事項の決定

1. 自己株式の取得を行う理由

中期経営計画「VISION 2030 stage1」の財務戦略に基づいて、機動的な資本政策を遂行するため

2. 取得の内容

(1) 取得する株式の種類	当社普通株式
(2) 取得する株式の総数	43万株（上限） （発行済株式総数に対する割合 2.49%）
(3) 株式の取得価額の総額	2,000百万円（上限）
(4) 取得期間	2023年11月6日から2024年3月22日まで

（参考）2023年9月30日時点の自己株式の保有状況

発行済株式総数（自己株式を除く）	17,066,082株
自己株式数	227,434株

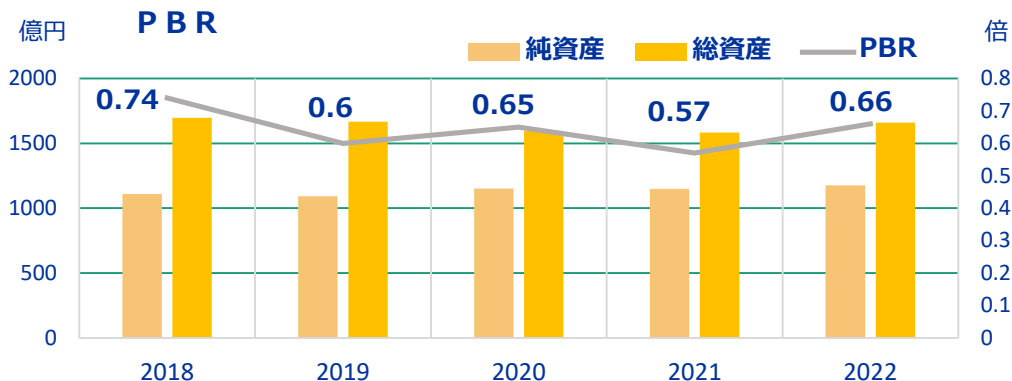
【追加資料】

- I. 主力セクター下期推進事項**
- II. 資本コストや株価を意識した
経営の実現に向けて**
- III. 環境負荷低減に向けた取り組み**

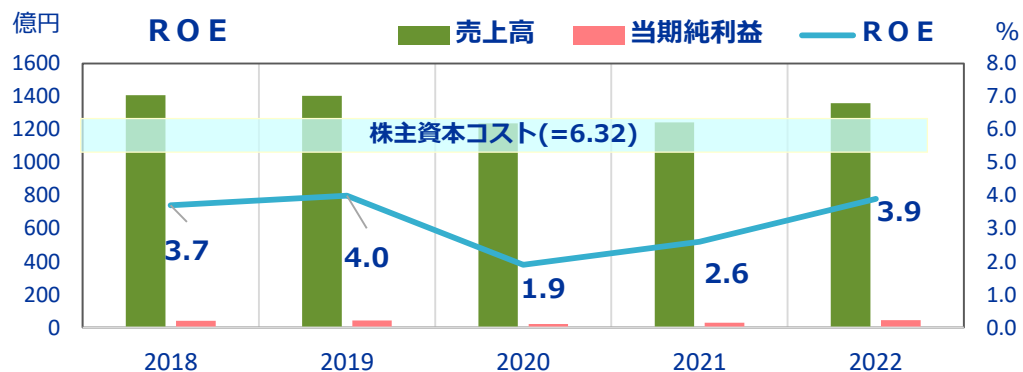
I 主力セクター下期推進事項

主力セクター	下期推進事項
プラスチック	・ 平版収縮 リサイクル原料比率30%フィルム等、環境対応製品の拡販 薄膜化フィルムへの市場参入 等による増収 ・ グローバル 米国:トイレタリー、ベトナム:飲料、中国:生活用品向け等 の新規獲得 等により増収 ・ サーキュラーファクトリーを活用し、全品種でのコストダウンを推進
エンブラ	・ 産業関連 健康医療向け等引き続き堅調に推移しており、拡販強化 ・ 半導体向け 原材料逼迫継続の中で、在庫調整局面も一時的 ・ O A 関連 新製品投入で挽回を図る 4Qより回復
メディカル	・ 中国向け 主力3製品の拡販（組織補強材、骨接合材、人工皮膚）による増収 ・ 成長性の高い新製品 癒着防止材、骨接合材等の拡販による増収 ・ 医療用レーザーの新規顧客獲得 ・ 個人クリニック、既存施設の買い換え等提案を強化
アパレル	・ DtoCビジネス強化: EC・直営店ルートでの増収増益を目指す ・ 量販店ルート: 24SSリブランドによる商品展開拡大(BODYWILD、Tuche) ・ 引き続き構造改革を進める

Ⅱ－１．資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

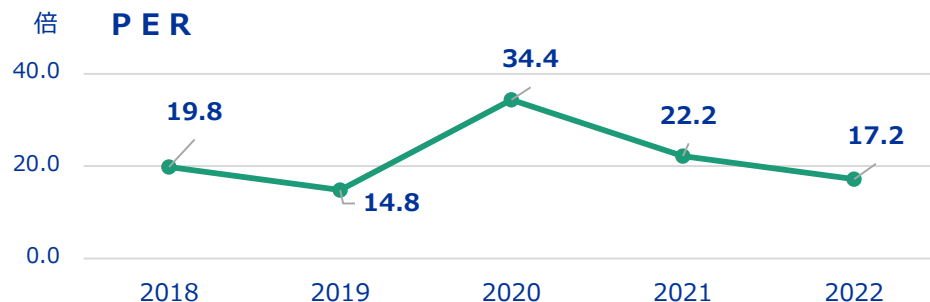


当社のPBRは1倍割れが継続



ROEは当社が推計する
株主資本コスト（6.32％）を
下回る水準

＜株主資本コスト：CAPM理論による2018年時点での当社での設定＞
株主資本コスト＝リスクフリーレート＋β値×マーケットプレミアム



PERはプライム市場の平均である
15倍以上で推移

Ⅱ－２．資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

(理論) **P B R** = **R O E** × **P E R** (目標)

当社の課題は収益力（ROE）の向上

ROE
6.32%以上

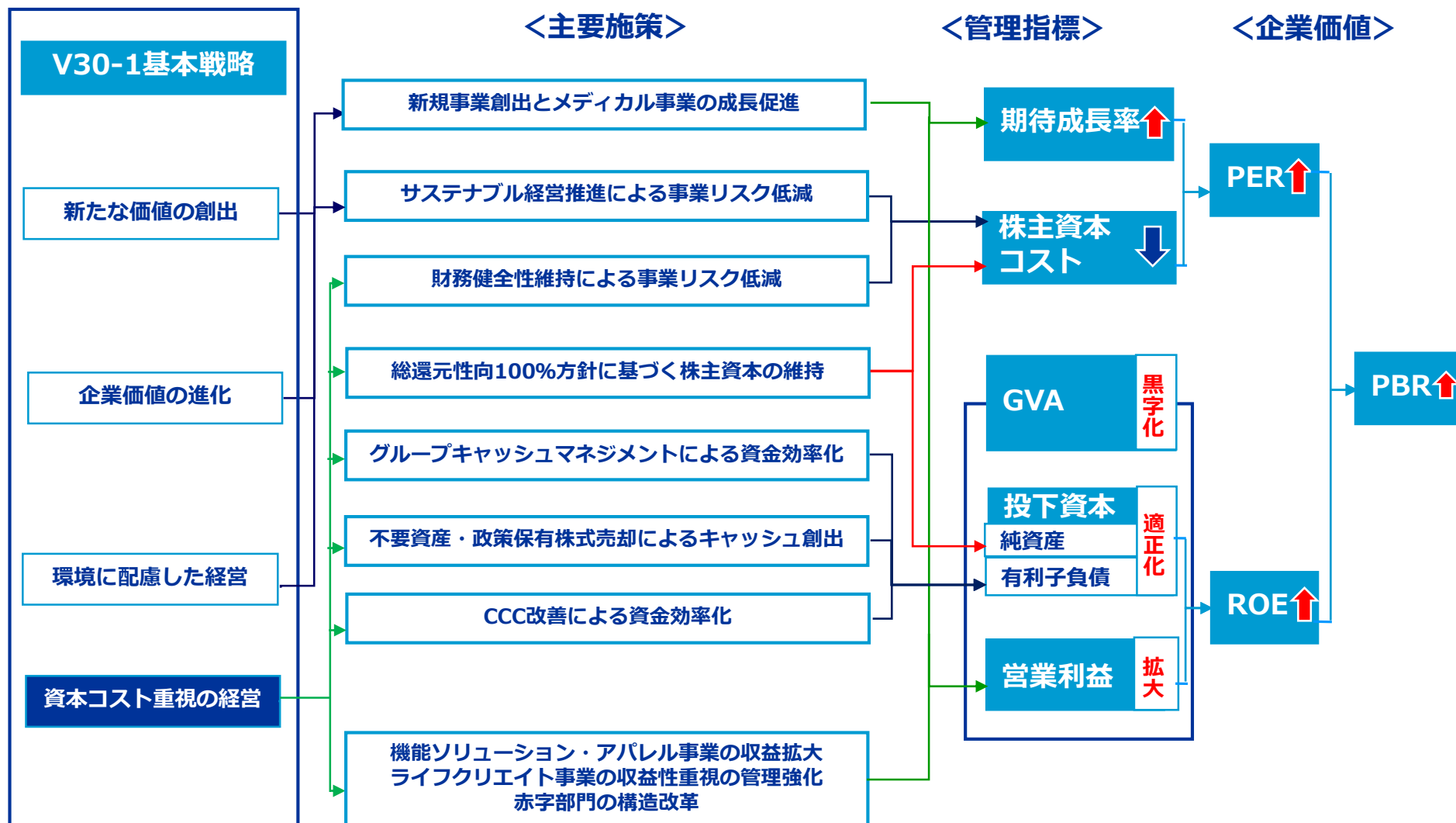
株式市場から求められているのは、
継続的な分子（利益）の成長

営業利益
100億円

GVAの伸長を追求し、より効率的な利益成長を実現する
とともに、適切な情報発信により当社への信頼を獲得し、
PBR 1倍を超える企業価値を創造する

GVA
全社計黒字化

Ⅱ－３．資本コストや株価を意識した経営の実現に向けて

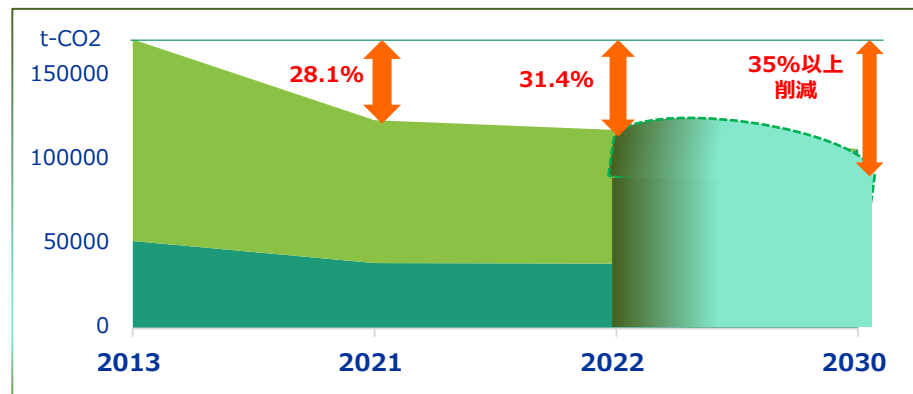


Ⅲ－１．環境負荷低減に向けた取り組み



Ⅲ－２． 環境負荷低減に向けた取り組み：CO2排出量削減

１．SCOPE 1、2 削減目標及び計画



削減手法	施策内容
省エネ	高効率設備への置換
創エネ	太陽光発電による自家消費
再エネ	グリーンエネルギーの導入等

今後、事業領域拡大によるCO2排出量増加を見込む
⇒再エネ活用の増強
⇒既存インフラ整備の事前準備
(将来のエネルギーイノベーションの活用)
で、2030年度35%以上削減を目指す

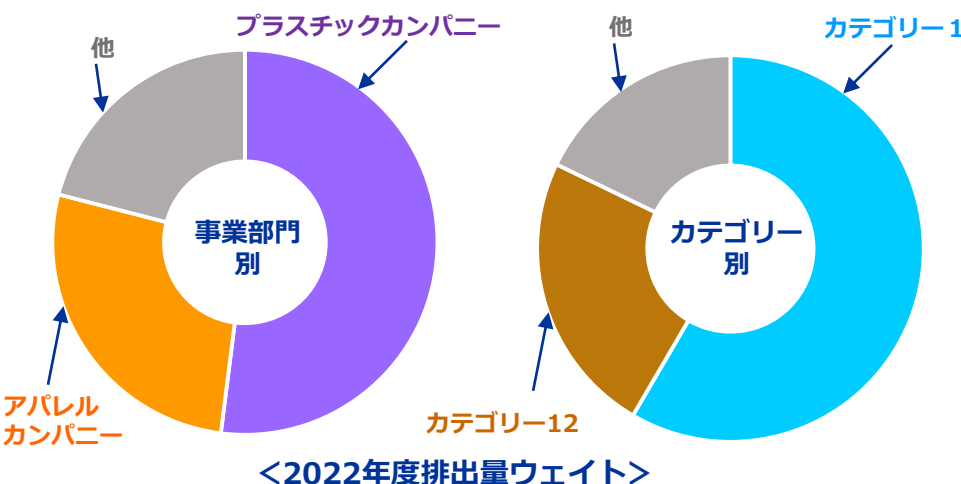
２．SCOPE 3 排出量

	2022年度	2021年度	対2021年度比	
	排出量(t-CO2)	排出量(t-CO2)	削減量(t-CO2)	削減率(%)
実績	423,860	410,668	▲13,192	▲3%

前年度増加要因は、カテゴリー 2 (資本財) の増加
・プラスチックカンパニーのサーキュラーファクトリー
・エンブラ分野でのZEB新事務所棟
・グンゼ開発でのつかしん再開発

↓
設備投資による単年度影響

プラスチックカンパニーとアパレルカンパニーを中心に
カテゴリー 1、12の削減に向け
全社視点での資源循環、サステナブル調達を重点推進



Ⅲ－3. グンゼの環境技術、取り組み：CO2排出量削減

3. 資源循環型社会の実現(SCOPE 3 削減)

SCOPE3削減に向けたKPI設定のロードマップ

約8割を占めるカテゴリー1と12を削減するための施策として、
まずカテゴリー5の削減に取り組む

Step1(V30-1)
廃棄物の再資源化を進める

Step2(V30-2)
Step1ノウハウによる
社内循環比率を高める

Step3(V30-3以降)
社内循環ノウハウ確立後、
市場回収した製品の再資源化

カテゴリー5
(事業から出る廃棄物)

カテゴリー1
(購入した製品・サービス)

カテゴリー12
(販売した製品の廃棄)

カテゴリー5と1にフォーカスし、取り組む



KPI設定：「廃棄物の最終処分率」で検討中

Ⅲ-4. グンゼの環境技術、取り組み

4. 上期実施事項

気候変動への対応

- ・EMS（エネルギー管理システム）導入によるエネルギーロスの可視化による削減
- ・新規建設物の高断熱化、高気密化による省エネ化（ZEB認証、CASBEE認証取得）：江南工場、守山工場



ZEB認証新事務所(江南工場)

サステナブルな調達

事業部門での取り組み推進

再生 原材料の使用



アパレル
再生ナイロン60%使用のボクサーパンツ



繊維資材
リサイクルポリエステル100%のミシン糸

バイオマス 原材料の使用



アパレル
バイオマスポリウレタン25%使用のストッキング



アパレル
バイオマス10%パッケージ

Ⅲ－5. 環境戦略主力セクター推進事項

エンジニアリングプラスチック分野 成長を支える基幹工場への拡張投資



江南工場(愛知県江南市)



投資総額：約57億円

建設計画：2024年2月着工、2025年5月操業予定

**増設内容：高断熱外皮や照明、高効率空調および太陽光発電の採用により
CO2排出量削減に努める**

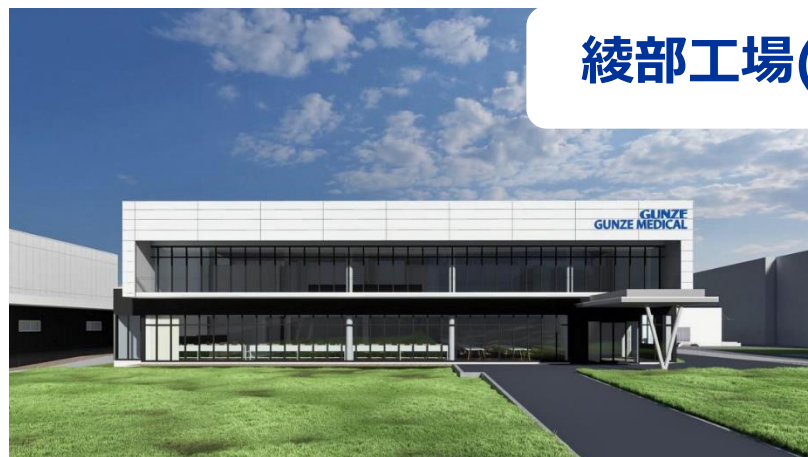
※CASBEE(建設環境総合性能評価システム)認証 B+以上の環境性能を有することを目指す



医療・半導体分野の顧客需要増に対応

Ⅲ－６．環境戦略主力セクター推進事項

メディカル事業 成長拡大を支える新工場建設と研究開発施設増強



綾部工場(京都府綾部市)

投資総額：約18億円（研究開発新施設含む）

建設計画：2024年3月着工、2025年2月完成予定

建設内容：高効率空調および太陽光発電の採用によりCO2排出量削減に努める

※CASBEE(建設環境総合性能評価システム)認証 B+以上の環境性能を有することを目指す



新工場：癒着防止材「テナリーフ」増産及び効率的な生産体制確保
研究開発新施設：次世代製品の開発力強化と効率的な量産立上げ

GUNZE

明日をもっと、ここちよく

本資料のうち、業績見通し等に記載されている内容は、現在入手可能な情報による判断に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策を保証するものではありません。